

約束を守れるようになってほしい



Q 「いけない」ということをする

「いけない」ということをわざとすることがあって、試されているような気がすることがあります。どうしたらやってはいけないことが分かるようになるでしょうか。

A お子さんの気持ちを受け止めましょう

子どもは、「いけない」とか「だめ」と言われることをやる傾向があるように思います。ご質問の中に“わざとすることがある”とありましたが、確かにそういう時もあるかもしれません。今、お子さんは、いろいろなことが楽しくて仕方がないのでしょう。だから、楽しそうなことややってみたいことを「いけない」と止められると、さらに興味が高まって、どうしてもやりたくってしまうのだと思います。

でも、世の中にはやってはいけないことがいろいろありますよね。それは社会生活をみんなで気持ちよく過ごすためのルールですから、お子さんにも守ってほしいと思う保護者の方のお気持ちはよく分かります。

お子さんがいけないと思うことをしたら(しそうになったら)、まず、お子さんにどうしたかったのか聞き、お子さんの気持ちを受け止めましょう。そして、それはやってはいけないことであることや、どうしていけないことなのかをきちんと伝えてください。もちろん、お子さんはすぐに全部を理解できないかもしれません。でも、大好きな保護者の方が真剣に話をするという姿は、きっと子どもに伝わります。また、“いけない”という行動が、保護者や身近な大人の注目を引きたいという表れの一つである場合もあります。そんな時、その行動を叱ると、そのお子さんはますますいけないことを繰り返して、注目を集めることを楽しむようになります。日頃からお子さんのちょっとしたよい行動をたくさん褒めたり、親子のスキンシップや温かい関わりを増やしたりなど、快い関わりを積み重ねていくことが効果的だと思います。

子育てに特効薬はありませんし、根気比べのようなことも多いのですが、分かってくれた時の喜びも大きいですね。お子さんが理解してくれた時、たくさん褒めて、“こうするとよい”“こうやるとみんなが喜んでくれるし、自分も気持ちがよい”という快い経験がたくさんできるようにしていきましょう。



Q 順番が守れない

何でも1番が好きで、順番が守れないんです。遊具で遊ぶ時も人を押しのけて1番になろうとするのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A 1番でなくてもよいという経験させましょう

1番が好きということは、決して悪いことではありません。人に負けたくないという競争心、人より優れている自分を見てほしいという気持ちの表れでもあります。“1番になりたい”という気持ちは、大

切にして育ててほしいと思います。

一方、遊びの中で1番になれなかった時にも、努力を大いに称えて認めてあげることで、1番でなくても十分素晴らしいということを経験させてあげてください。但し、順番を並んで待つことに関しては、道徳心、規範意識を育てる意味で十分気をつけさせたいものです。世の中には守らなければならないルールがあること、逆に自分がされたら嫌な気持ちになることなどは、時間をかけて伝えていくことが大切です。この時、お子さんにじっくり話しながら言い聞かせるだけでなく、なかなか理解できないような時には、絵本やお話を通して伝えるとより効果的です。お子さんの様子に合わせて試してみてください。

また、順番を守るなどについては、保護者も一緒に並んで話をしながら、並んで待つことを楽しんでみたり、並んで待つことでけんかやトラブルがなく、お互いが気持ちよく過ごせることを味わってみたりしてはいかがでしょうか。



Q 約束したことを忘れてしまう

友達と遊ぶのが大好きで、よく遊ぶ約束をします。でも、他に興味があると約束したことを忘れてしまうため、友達に「もう遊ばない」と言われてしまいます。どうしたらよいのでしょうか？

A 子どもは『その時』を生きています

降園後に友達と約束して遊ぶのは、園で遊ぶのとは違う楽しさがありますし、園生活とは違うルールを守るという意味でも大切な経験が含まれていますね。

お子さんは、友達と遊ぶのはとても好きなようですし、遊ぶ約束をする友達もいるのですから、普段からきつと楽しい遊びを繰り広げているのでしょう。

ご相談の“約束を忘れてしまう”ということですが、子どもはその時その時を真剣に生きているので、約束した時は本気でそう思っている、時間が経って変わってしまうのかもしれませんが、それは、大人の考える“約束を破った”“約束を忘れた”とは少し意味が違います。ただ、相手のお子さんにとってみたら「約束したのに」という気持ちになるのも、もっともなことです。ここは大人が手助けをしていきましょう。

園にお迎えに行った時や園から帰ってきた時に、お子さんに「今日は誰かと遊ぶ約束をしたの？」と聞いてみてはいかがでしょうか。その後、保護者同士で確認し合うことで、約束したことや互いの都合が確認できます。一手間かかりますが、お子さんが気持ちよく遊べるためにも、約束を守るということが分かるようになるためにも、保護者の力を貸してあげてください。



Q ルールを守って遊べない

遊んでいてもルールが守れないんです。だから周りの子も一緒に遊ぶことを敬遠するようになってしまって困っています。

A ルールを守れない理由から探ってみましょう

それはご心配ですね。一度、お子さんの遊ぶ様子を口を出さずにじっくり見てください。例えば、人に負けたくないという気持ちや一番になりたいという気持ちが強いので、ルールを破ってしまうのか、または、ルールそのものが理解できないことが原因なのかなどで、対応が変わってきます。

前者の場合は、遊びの中でルールを守ることで、友達と仲良く、楽しく遊べるということをじっくり理解させることが大切です。例えばルールを破って勝負に勝ったり、一番になったりしたとしても、それは何にも価値がないことや、嬉しくないことを伝えてあげてほしいと思います。ルールを守って遊ぶことができた場合は、大いに褒めてあげましょう。

また、後者の場合は、簡単な遊びからルールを意識させるとともに、ルールを理解できるかなど、じっくり観察してみてください。時には、保護者も一緒になって遊び、ルールを理解させることも必要です。年齢が小さい時には、まだルールが分からないことも多いと思いますが、4歳、5歳児になれば徐々に分かるようになってきます。理解力については個人差もありますので、様子をじっくり観察するとともに、ご心配ならばまずは園の先生にご相談されることをお勧めします。園以外にも日常の小さなことについて気軽に相談できる所として、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などに行ってみるのもよいと思います。



Q 日々やるべきことができない（生活習慣）

手洗いやうがい、歯磨きなど、毎日やることができません。本人はやらなくてはいけないと分かっているようですが、ちょっと目を離すとやらないで済ませようとしてしまいます。時には「やった」と嘘をつくこともあります。このままでよいのでしょうか？

A 続けることが楽しみになるようにしましょう

『三つ子の魂百までも』と言われるとおり、幼児期に基本的な生活習慣が身につくようにするのはとても大切なことです。

ご相談のお子さんは、すでに生活の中で何をしなくてはいけないのかは分かっているようです。それは、保護者の方の日頃のご努力の賜物だと思います。

子どもの中には、一度身についた生活習慣をやらなくなってしまう時があります。「今までできていたのに……」と思うのですが、これも成長の一過程であり、成長の中で“手を抜くこと”も学んでいるのです。

しかし、手を洗ったり、うがいをしたり、歯磨きをしたりすることは、本人が今後も健康で気持ちよく生活するために欠かせないことです。まずは、お子さんがやる気になった時、その姿をたくさん褒めてください。褒められることは大人でも嬉しいですから、お子さんのやる気につながると思います。そして、お子さんの成長に合わせて（4歳中頃になっていたら）、こんなお話をしてみてください。例えば、“歯磨きをしなかったら歯が無くなって大好きなものが食べられなくなること”“手洗いうがいをしないと、ばい菌が体に入って病気になってたくさん遊べなくなること”など、どうしてやらなくてはならないかという必要性を、お子さんにきちんと伝えてみてはいかがでしょうか。また、ちゃんとやったらカレンダーにシールを貼るなどして、やったことが目に見えてわかり、続けることが楽しみになるようにすることも、お子さんの意欲を高めるための一つの方法です。楽しみながら生活習慣が身に付くように、少し工夫をしてみてくださいはいかがでしょうか。



Q 乱暴をしたりけんかをしたりする

園では友達に意地悪をしたり乱暴したり、おもちゃを取ってしまったたりけんかも多いようです。家でも同じような状態です。「おもちゃを取らない、たたかない」などの約束も守れません。どうしたらよいのでしょうか？

A 気持ちを受け止め良い悪いの判断を示しましょう

とても元気の良いお子さんですね。大人には意地悪、乱暴と見える行為にも子どもには、そうするだけの理由が必ずあるものです。でも、乱暴や意地悪をした時には、お子さんの気持ちをしっかり受け止めながらも、お子さんの行動で“相手が怪我をすることがあること”、物を壊すなど危険な行為に対しては“やってはいけないことがあること”を知らせ、“良い悪い”の判断を保護者の方がしっかり示してあげることが大切です。

3歳頃のお子さんでは、自分の思いのままに行動し、友達のおもちゃを取ってしまったたり、乱暴に友達の作った物を壊してしまったりすることもありますので、その都度相手に「かして」「いれて」「ありがとう」「ごめんね」などの具体的な言葉をかけることや、おもちゃを順番や交替で使うことなど、遊びの約束をお子さんに教えてあげましょう。

5歳頃になると、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを思いやったりするなど、集団のルールを理解する力や自分の気持ちをコントロールする力もついてきます。ですから、頭ごなしに叱らず、「なぜ意地悪や乱暴をするのか」「どうしたかったのか」「どうしたらよかったのか」など自分の行動や解決のための手立てを一緒に考えてください。相手の立場になり相手の気持ちを考えることも知らせ「今度は〇〇しようね」と、お子さんと約束を決めるとよいと思います。お子さんも納得した上での約束なら守れるでしょう。そして、約束が守れた時、良い行動が出来た時には、たくさん褒めて、お子さんに「できた」という自信をもたせていくことが大切です。

自分の思いを上手く表現できなくて、満たされない思いを友達や兄弟に乱暴したり、意地悪したりすることで、「お母さん、こっちを見て」と、訴えているケースもあります。その場合は善悪の判断はしっかり示しながらも、お子さんの気持ちを十分受け入れ、一対一でお子さんと向き合い、スキンシップを取りながら話をしたり相手になってあげたりすることも大切だと思います。

子どもの成長は“らせん階段”のごとく行ったり戻ったり、出来たり出来なかったりを繰り返しながら大きくなっていきます。園の先生にもご相談し、園と家庭と一緒に、お子さんの状態がよい方向に向くように考えていったらいいかがでしょう。しかし、なかなか今の状況が変わらないこともありますので、焦らずお子さんの成長を見守っていきましょう。

最後に、乱暴や意地悪が続く、約束ができない、守れないなどの状況が変わらず、ご心配が続くようでしたら、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談されることもよいかと思います。



Q 園や友達のを家に持ってきてしまう

友達の持っているハンカチやキーホルダー、園のおもちゃなどをかばんやポケットに入れて家に持ってきてしまいます。かばんやポケットのチェックをして注意はしていますが、なかなか約束が守れません。とても心配です。

A お子さんの気持ちを聞き一緒に対応を考えましょう

お子さんにとっては、友達のもっている物は、とても素敵に魅力的に見えるのでしょうか。園で気に入っているおもちゃはお家に帰ってからも遊びたくて持ってきてしまうのかもしれませんが、でも、お子さんが友達の持ち物や園のおもちゃを持ってきてしまった時には、まずは、頭ごなしに叱るのではなく、「どうして持ってきたのか」と理由を聞いてください。子どもにはそれぞれの思いがあるので、お子さんの声に耳を傾ける姿勢をお持ちください。自分の気持ちを上手く言葉で表現できない子もいますので、その時はお子さんの気持ちに寄り添いながら、時間をかけて対応してあげましょう。

お子さんの気持ちを聞いてから、友達や園のものは持ってくると、相手は困ってしまうことを伝えてください。子どもは成長とともに生活や遊びの中で“自分のものと人のものの区別”“良い悪いの区別”が少しずつ理解できるようになります。でも“良い悪い”の判断を間違えている時には保護者の方がしっかり話を教えてあげることが大切です。そして「明日、持ってきてしまった物は返そうね」「ごめんねをしようね」など、お子さんと一緒にどうしたらよいのか具体的な約束を考えてください。園から持ってきてしまった物を返したり、相手に「ごめんなさい」などが言えなかったりする場合は、保護者の方が園の先生に事情を伝え、お子さんと一緒に家に持ってきてしまった物を返却したり謝罪したりしてあげましょう。

保護者の方はいつもお子さんの“道しるべ”であると同時に、“味方でありよき理解者”であってほしいと思います。お子さんの気持ちをいつも受け入れる姿勢を持ち、お子さんのよき相談相手になってほしいと思います。

友達や先生や保護者の方の気持ちを自分に向けたくて、悪いと分かっている行為をやってしまうお子さんもいます。約束をしても、何度も繰り返す場合もあります。友達関係などが上手くいっているのか、園生活が楽しくできているのかなども含めて、園の先生にもご相談になり、園と家庭と一緒にお子さんの成長を見守っていくのがよいかと思えます。



Q 人のものをとってしまう

遊んでいると、周りの子のものをすぐにとってしまうんです。どうしたらよいでしょうか。

A 持ち物に印や名前をつけて自分のものを意識させましょう

それはご心配ですね。きっと自分の気持ちを素直に行動に表せるお子さんなのでしょうね。年齢によっては、遊びに夢中になっていると、道具が自分のものであるのか、人のものであるのかなどが、まだわからない時期もありますので、様子をじっくり見てください。年齢が上がるにつれて、自分のものか、人のものか、みんな（園）のものかなどの区別ができるようになります。お子さんが使いたい気持ちを優先して、人のものをとって使ってしまう

た場合も、「使いたかったんだね」と一度はお子さんの気持ちを受け止めてあげてから、“順番”や“かわりばんこ”に使うことを教えてあげてください。子どもは大人に比べて視野が狭く、自分のことしか見えなくなる傾向があります。そのため、人のものをとったことを頭から叱るのではなく、一呼吸置いてから客観的に考える時間を持ち、気付かせるようにすることが大切です。

また、お子さんの持ち物に印を付けたり、名前を書いたりして、自分のものを意識させることも大切です。自分の名前が書いてないものは、勝手にとってはいけないことも教えてあげてください。そして、「△ちゃん気持ち、わかる?」「いやでしょう?」「どうしたらよいか?」など、相手側の気持ちを保護者が一緒になって考えてあげることも必要です。使いたいものがあったとしても、人からとってしまわず、順番に使う姿や「貸して」と言う姿が見られたら、たくさん褒めてあげましょう。いずれにしても成長の過程ではよくある姿ですので、あまり気にしすぎることなく、気長に成長を見守ることが大切です。